

魔法の Wallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 直江祥史 所属: 石川県立いしかわ特別支援学校 記録日: 2020年2月11日

キーワード: コミュニケーション 自己肯定感 不安 VOCA

【対象児の情報】

・学年

小学3年生の男児

・障害名

中枢神経奇形 精神運動発達遅滞(肢体不自由)

・障害と困難の内容

生活の中で、初めてのことや場所・見通しの立たないことがあるとストレスとなり、大泣きしてパニックになることがある。特に全校集会や文化祭など、大体育館での学校行事が苦手で、入り口に入るなり大泣き最後まで参加できず途中で退出することがあった。また、一度大泣きすると酷いときにはパニック状態となり、なかなか気持ちを切り替えることができず、何度も泣くということもあった。

コミュニケーション面では、発語が「まー」「ままー」の1語程度、主に指差しや「これ、ちょうだい」と手をパチパチ叩くジェスチャーで要求を伝えることができる。しかし、表現できるジェスチャーなどが少なく声や身振りで何かを伝えようとするときがあるが大人に伝わらないことが多く、そのこともストレスとなり大泣きしてしまう。

【活動目的】

・当初のねらい

(1) 大体育館での行事に落ち着いて参加する。

大体育館への苦手意識や行事への見通しを持つために、写真や画像、スケジュールアプリなどを活用する。

(2) 自分の思いを身振りやカードなどで伝える。

要求や新たに要求したいことを記録し、VOCA やタブレット端末を活用する中で表出しやすい方法を見つける。

・実施期間

令和元年4月～令和2年1月まで

・実施者

直江 祥史

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

ねらい(1) 大体育館への苦手意識について

空間への苦手意識が強いためか、大体育館に入ろうとすると嫌がり、車椅子のブレーキをかけて入ることを拒む様子が見られた。昨年度の大体育館での行事(全校集会、運動会、避難訓練など)では最初から大泣きしてしまい、最後まで参加できないことがあった。しかし、写真カードでは、何故かよく大体育館の写真に指差し興味がある様子であったため、実際に大体育館へ行くと、入り口で車椅子のブレーキをかけようとするなど抵抗感を示す様子が見られた。

ねらい(2) コミュニケーションについて

昨年度は、指差しや「ちょうだい」のジェスチャーの他、「お茶を飲みたい」「本が欲しい」「シールが欲しい」「横になりたい」の4つ要求を GoTalk(VOCA)で伝えることができた。しかし、それ以外に何かを伝えようとするが上手くまわりの大人に伝わらず、それがフラストレーションとなり、長時間大泣きしてしまうことがあった。

・活動の具体的内容

(1)について 苦手な大体育館でも安心して参加できるようになるために

【苦手意識を無くす】

その① 大体育館まで散歩しよう

⇒大体育館の苦手意識について、自立活動の時間の児童との歩行練習などを利用して年度当初から教師と一緒に大体育館へ頻繁に通うようにした。大体育館で行われている授業や行事に興味を示すようになった。



大体育館へ向かうと、大体育館の様子が気になり、写真や動画を撮った

その② 大体育館で写真を撮ろう

⇒大体育館で活動している様子の写真や動画を一緒に撮り、教室でふりかえった。また、簡単なタッチや声でシャッターを押せる iPad アプリ「声シャッター」を活用することで他の生徒や児童が興味を持ち、触れ合うきっかけとなった。しかし、iPad で自ら写真を撮ることよりも写真を見ることの方に興味があり、児童が手に取って活用するには至らなかった。大体育館で撮影した写真や動画は、AppleTV で制御した教室のテレビモニターで視聴した。テレビが大好きな本見は、さらに興味津々な様子で撮影した大体育館の様子を見ることができた。



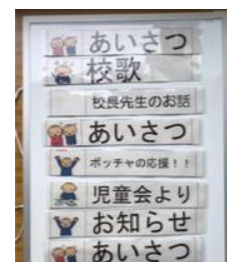
・・・その①その②の実践を通して、さらに見通しを持つために

実践を試行していく中で、5月避難訓練と運動会が行われた。プロジェクトの取り組みの他に事前指導や練習を行ったためか、どちらも泣くことなく参加することができた。特に苦手な大体育館での全校集会では、年度当初から集会の終盤近くまで泣きそうになりながらも堪えて参加できる姿が見られた。その都度、最後まで大体育館に留まって参加できるよう絵本や大好きなシールを持参したが、さらに全校集会では見通しを持って安心して参加できるように予定ボードを持参した。

【行事当日、安心して過ごすこと】

その③ 終わりまでの見通しを持つ

⇒全校集会では予定ボードでプログラムを提示し項目が終わるごとにマグネットカードをはずして終わりまでの見通しをもった。予定ボードのマグネットをはずすことを楽しみ、嬉しそうに一枚ずつはずす姿が見られた。朝の会や授業ではあまり効果がなかった。しかし、集会で実施したときは、項目のカードを「ちょうだい、ちょうだい」と指を差していたため、終わりへのカウントダウンが理解できたのが有効であった。※iPad は持参すると遊びたくなり、逆に不安定になり持参しなかった。終業式と始業式では全く泣くことなく参加することができた。



全校集会で活用した予定ボード
iPad は使用しなかった

(2)について 自分の要求がより相手に伝わるようにするために

【伝わる経験を増やす】

その① VOCA を活用しよう

⇒「お茶を飲みたい」「本が欲しい」など声で相手に伝えるように GoTalk4などの VOCA, さらに選択肢を広げるために iPad のアプリ「DorpTalk」を活用した。要求が伝わると納得した様子でお茶を飲んだり本を手にとったりしていた。伝わる経験が増えたことで、指差しや近くの人にボディタッチで要求を伝えようとする姿が多く見られるようになった。



DropTalk



4つの要求まで選択できる
GoTalk4を当初活用する

DorpTalkの選択肢

その② 朝の会の司会をしよう

⇒受け身になりがちな授業において、主体的に参加できるように“DropTalk”を活用して朝の会での司会進行を行った。操作した項目が AppleTV で制御したモニター画面に映し出されることがわかり、友達の写真や進行の項目をよく見て操作する様子が見られた。今までの朝の会では、教師がカードを提示して待ち時間が多く、その間に機嫌が悪くなる様子が見られた。しかし、児童が主体となり活動量が増えることで意欲的に参加しようとする様子が見られるようになった



積極的に司会で参加している様子

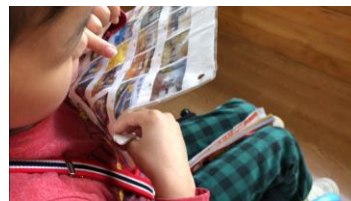
・・・その①その②を実践する中、児童の発信が増えたが、

大人に要求が伝わる経験が増え、積極的に動きボディタッチや大人の服を引っ張り指差すなど、もっと伝えたいという意欲が高まっている様子が見られた。しかし、教師が iPad や VOCA を持ち出して確認しようとしているうちに、それがタイムラグになりフラストレーションが高まるという場面が見られるようになってしまった。

【いつでも要求を発信できる】

その③ いつでも要求を発信できる写真カード

⇒iPad や VOCA では活用する場所が限られるため要求や関わる先生や友達の写真を集めた写真カードを携帯できるようにした。伝えたいことがあるとカードを取り出して指を差し、自分の思いが伝わると満足



他にも友達や先生の顔、○好き×嫌いの選択肢もある

した表情が見られた。当初は、写真カードを見て、ときどき指を差し「○○先生どうした？」などの発信をすることがあったが、11月頃から指差しが増え、「図書室へ行きたい」「横になりたい」等の要求カードとして使い始めた。

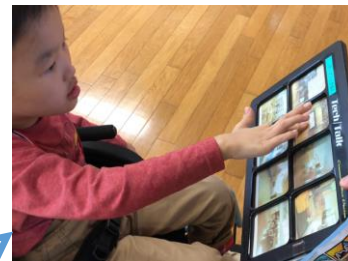
・対象児の事後の変化

(1) について **大体育館へ行くことへの抵抗が減り、お気に入りの場所になった**

歩行練習の時間や余暇の時間に、VOCA や写真カードで指差し「おねがい(行きたい)」のジェスチャーで伝えるようになった。また、大泣きしてしまった全校集会にも泣かずに最後まで参加できるようになった。文化祭では、ステージ上で表現会の発表をすることができた。

(2) について **自分から伝えようとする意欲が増すとともに活動的な姿が増えた**

何か伝えたいとき、VOCA が置いてあるところまで自分で移動して大人に伝えようとするようになった。また、携帯した写真カードを好きな時に指差してコミュニケーションをとろうとする姿も多く見られるようになった。



自ら VOCA を探して、「大体育館」とスイッチを押して伝えている

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

(1) 大体育館での行事に落ち着いて参加することができた

★動画や写真を教室でも好きな時に見ることができたことで、大体育館の雰囲気の確認や活動の見通しを持てたのではないかと。

★大体育館に頻りに通うことによって大体育館で行われていることなどに興味をもち、VOCA や選択肢カードでも行きたい場所で示すようになり苦手意識が軽減されたように感じられた。

(2) 自分の思いを身振りやカードなどで伝えようとするようになった

★伝わった成功体験を積み重ねることで活動的になり、自らやろうとする自信につながったのではないかな。

★VOCA やタブレット端末を活用する中で本児がそれを便利なものだと気付いたのではないかな。

・エビデンス

(1) について

<VOCA で大体育館へ行くと選択する>

4月から5月にかけて大体育館への苦手意識を緩和するため大体育館へ通うようにした。その後、VOCA (TechTalk)に行きたい場所を選択できるように設定し、児童が選択して行きたい場所へ行くようにすると、好きな図書室と共に積極的に選択するようになった。

⇒抵抗なく大体育館に入ることができるようになり、行事に参加することができた。

(全校集会 運動会 避難訓練 音楽会 文化祭に参加することができた。)

TechTalk



5～6月では、他の選択肢の中でもほぼ大体育館の写真を選び、実際に抵抗感なく大体育館に行くことができた。現在(2月)はお気に入りの場所が図書室になり、活動の範囲も広がった。

(2) について

<DropTalk で選んだ要求の記録(4月～6月)>

4月から児童が主に伝えた要求を精査し6月から登校後の朝や休憩時間中、iPad を提示し要求を選択できるようにした。当初は児童の要求や要求したいことの傾向を把握するために記録をとったが、場面によってアプリを立ち上げなければいけないとき児童が要求を伝えたい時とタイムラグがあったり、指差しの方が周りの大人に伝わりやすい場面が多く見られたりしたため、取り組みとしてはあまり有効ではなかった。記録をとる中、児童も自分の指差しやジェスチャーでも伝わる事が分かったのか次第に選択肢にとらわれず、指差しやジェスチャーで発信して行くようになった。

6月	シール	飛になりたい	お茶	トイレ	本棚	本読みない	遊んで	大泣き	
6日(木)	2	4					5		
7日(金)					2				
10日(月)	3				2		1		
11日(火)							1	1	もっと遊びたい
12日(水)					2			2	もっと本読む時間欲しい 給食のデザート
13日(木)		1			1			2	給食のデザート 友達が持って行って好きな本がない
14日(金)									
17日(月)	1							多い	プールバッグ取って？ 本の取り合い
18日(火)									
19日(水)									
20日(木)	2	2				3		1	朝寝癖が悪い
21日(金)									
24日(月)						1			
25日(火)	2				1	4			
26日(水)		1			1	1			
27日(木)		1		1		2		多い	何故か多い 食欲なし
28日(金)				1	1				

⇒自ら指差しや身振りて思いを伝えようとする様子が増えていった。

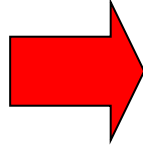
<児童が発信しようとする回数や要求の種類を記録する(9~11月)>

9月より発信の回数と要求の種類を記録するようになった。また、自由に表出する手立てとして、写真カードも携帯するようになったが、あまり興味がない様子であった。10月まで毎日平均 10 回程度の発信であったが、11月の文化祭の時期から頻りに写真カードを取り出して指差したり VOCA を探して伝えたりするようになった。

主な要求・表出

9月・10月

- ・本が欲しい・横になりたい
- ・シールちょうだい
- ・そっちに行きたい
- ・紙(チラシなど)ちょうだい



11月から

- ・iPad 持ってきてほしい(置いてある倉庫まで移動して指差す)
 - ・そっちへ行きたい(行きたい方向を指差してから手を叩く)
 - ・先生どこ行ったの?(写真カードで教室を出た先生の顔を指差す)
 - ・〇〇くんどうしたの?(気になる友達の写真を指差す)
 - ・どこか連れて行って(VOCA を探し行きたいところを差す)
 - ・横になりたい(マットまで移動し、ベルトを指差す) など
- ⇒積極的に自ら行動し伝えようとする姿が見られるようになった。また、車椅子の自走も積極的に行うようになった。

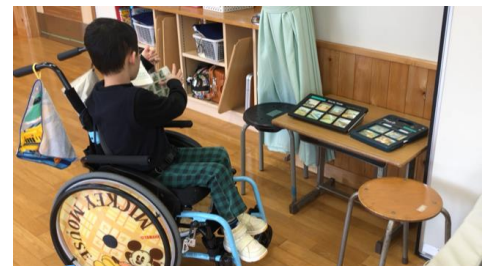
文化祭の練習の時期(10月末頃)、表現会の練習など本児の思い通りの時間の過ごし方が難しくなり気持ちが不安定になる様子が多く見られた。しかし、「ぼくは、これがしたいんだ!」という気持ちが逆に強くなり、表出意欲につながったのではないかと考えられる。

⇒人に伝わりやすい手段を選んで伝えようとする意識が向き始めた。

・その他エピソード

【活動を通して変化した児童の姿】

昨年度に比べ、大泣きする場面が大幅に減少し、行事の他にも落ち着いて参加できる場面が格段に増えた。当初はタブレット端末で伝えたいことを表出できるようにと試みたが、本児自身が伝えやすい手段を選び、VOCA や写真カードを使って積極的に伝えようとするようになった。そして、大人だけでなくクラスの友達にも関心を示すようになった。



写真カードを車椅子の後ろから取って、何かを伝えようとする様子